

菓子業界のプラスチック問題への取組の 現状と今後の取組方向について

令和 8 年 1 月

全日本菓子協会（森永製菓株）

1. 取組の現状

- 菓子は、多種多様であり、商品ジャンルによって包材に求められる機能に違いがあるものの、総じて品質保持の観点から**「複層材」が使用**されている。
- 現時点では、複層材は分離しにくいなどの面があるため、菓子業界では、「3 R +Renewable」の中でも、「リデュース」を中心に取り組んでいるところ。
- そうした中で、最近は、「リサイクル」推進の一環で、**各社が独自に店舗・オフィスなどで包装資材を回収し、製品プラの製造に使用する取組**などが増加している。
また、**バイオマスプラスチックへの一部置換、単一素材パッケージへの切替の検討**なども積極的に行われるようになってきている。

(参考) 菓子の特徴

一般に、加工食品の容器包装に複層材が多く使用されるのは、品質や形状を保持する観点から、防湿性、遮光性、耐熱性、酸素バリア性、菓子形状の保護、輸送上の保護など多様な機能が求められることによる。

菓子は、チョコレート、ビスケット、キャンディ、スナック、油菓子、洋生菓子、和生菓子など多岐にわたる商品ジャンルがあり、これらのジャンルに応じ、特に求められる機能が異なる面があることから、複層材も多種多様なものが利用されており、複層材のリサイクルを一層複雑なものにしている。

① リデュース

- ・**包装材の軽量化・簡素化**

(例：「個装・外袋薄肉化」、「ボトル容器サイズの縮小」)

- ・**無駄な二重包装や、過剰包装の見直し**

(例：「スタンドパックをチャックなしに変更」、「トレーの廃止」)

- ・**製造工程における包装ミスの削減**

- ・**紙製容器への切り替え**

(例：「外装フィルムの全部あるいは一部の置換」)

(参考) 菓子業界全体のプラ削減への取組

全日本菓子協会では、第4次環境自主行動計画(2021年度～2025年度)に基づき、25年度の容器包装全体(紙・プラスチック・ガラス・PET)について、基準年度（2004年度）から、原単位(売上高ベース)で18%削減、総排出量で3%削減することを目標として取り組んでいる(総排出量は「参考指標」としての位置付け)。

対象会員企業42社の2024年度の容器包装全体の状況は、原単位で基準年度から26.8%の減少、総排出量で同4.3%の減少となっており、現段階で目標は達成。

なお、参考情報としてプラスチックだけを見ると、42社の売上高の増加により、排出量は同15.8%増加しているが、原単位では同26.8%減少している。

3 R +Renewableの具体例

② リサイクル

・処理方法の転換

(例:「工場から排出された容器包装プラの T R からガス化 C R への変更」)

・店舗で回収した容器のリサイクル

(例:「包装容器⇒トング」、「ガムボトル⇒ボールペン」、)

・単一素材への切り替え (例:「外装フィルムの単一素材化」)

・再生プラの商品への利用 (例:「再生材 (ペット) のトレーへの使用」)

【 森永製菓(株) 】



inゼリーリサイクルプログラム

回収した容器がトングに生まれ変わりました!

パウチを回収 → ベレット化* → ごみ拾いなどに使えるトングに生まれ変わりました**

キャップ:EVA
本体:ステンレス
クリップ部分:inゼリーのキャップを10%配合した再生原料100%

リサイクルで地球の未来をコンディショニング!

*今回ベレット化したのはキャップ部分です。
**トングのクリップ部分にinゼリーのキャップが10%配合された100%再生原料が使われています。

MORINAGA + TERRACYCLE

【 (株)ロッテ 】



3 R+Renewableの具体例

③ リニューアブル

・バイオマスプラスチックへの切り替え

(例：「パウチフィルムにバイオマスプラスチックを採用」、「個装フィルムの一部をバイオマスプラスチックに変更」)

・菓子原材料を有効活用したバイオプラスチックの開発・利用

(例：「カカオの未活用部位（カカオ豆の種皮）を利用した「カカオバイオプラスチック」の開発と自社製品などへの使用」)



2. 今後の取組方向

(1) 菓子のプラスチック削減等への基本的な考え方

① 菓子業界においては、引き続き、菓子で利用する容器包装の特徴を踏まえつつ、「3R + Renewable」の観点で対応していくが、当面は、リデュースを中心に、リサイクル（市町村回収ルート以外）などに取り組んでいくこととしている。

具体的には、

- ・リデュース面では、パッケージの見直し、製造工程における包装ミスの削減、紙製容器への切替などを推進していく。

- ・リサイクル面では、各社が独自に製造工場、店舗・オフィスなどで包装資材を回収してM RやC Rに回すことや、単一素材への切替、既存の再生材の商品への利用を推進していく。

- ・リニューアブル面では、バイオマスプラスチックの利用拡大などを推進していく。

② 併せて、菓子業界内においても、各メーカーによる先進事例を共有し横展開などを図ることにより、全体的な取り組みにつなげていく。

(2) 菓子業界としての再生プラの利用への考え方

- ① **プラスチック資源循環の取組として再生プラの利用拡大は重要**と考えるが、菓子産業など食品企業は、製造コスト、物流コストなど様々な面でコスト高に直面し、事業収益が圧迫されていることから、コストに関する再生プラの利用拡大には「**実施可能な現実的アプローチ**」が必要。
- ② 再生プラの利用拡大については、再生プラを利用した包装資材に関し、食品の特徴から、**安全衛生・品質保持・供給価格・供給量**の面において事業者が使用可能な包材が安定的に入手できる環境が整備されることが必要。

これまで本会議で提供された情報を見る限り、ユーザーサイドが再生プラの利用拡大について判断できる材料が乏しいと言え、今後の情報提供を期待したい。

- ③ また、**プラスチックの回収の拡大なども必要**。菓子業界では、市町村ルートとは別に、自社の製造工程等で排出される廃棄包装資材のリデュースやリサイクルに取り組むが、**利用の多い複層材の分解が最大の課題**。この複層材問題については、基本的には、供給側において、商品に求められる機能を持った**単一素材化の研究開発を積極的に行ってもらうことが重要**であり、**各用途向けの包装の商品化**を期待したい。

菓子メーカーとしても、包装メーカーなどと積極的に情報・意見交換を行っていきたい。

- ④ **菓子業界**としては、引き続き、各種法令やプラスチック資源循環戦略などを踏まえ、関係企業・団体と連携し、**プラスチック削減や再利用に取り組んでいくこと**としたい。
- ⑤ なお、菓子業界としては、**EUの包装及び包装廃棄規則（PPWR）**が2月に発効し、2030年より適用される予定であるが、我が国の菓子の対EU輸出は約2%あるため、**これへの対応も重要な課題**。